

さて、推定結果1の係数と、図表10から13の判定者割合を用いて、福井県民の健康度が全国に比較して良いことによって、どの程度、医療費が縮減されているのか、その節約額を評価することが出来る。まず、図表41は推定結果1の係数を再掲し、平均額に対する超過割合(%)にしたものである。この割合に、図表10から13で得られた全国との判定者割合の差を乗じることによって、各年齢層の総医療費をどの程度押し下げているか定量化することが出来る。その結果が図表42であるが、40歳代の医療費を-7.5%、50歳代の医療費を-13.9%、60歳代の医療費を-10.9%、70-74歳の医療費を-10.1%と、それぞれ1割程度削減できていることがわかる。

図表41 超過医療費と超過医療費の割合(推定結果1より)

一人当たり平均(年額)		
	超過医療費額(円)	超過割合(%)
メタボ予備群	22,749	9.6%
糖尿病強く疑い	115,774	48.8%
糖尿病可能性	35,447	14.9%
脂質異常症疑い	97,183	40.9%
高血圧有病者	58,962	24.8%

図表42 福井県の医療費節約割合

	割合			
	40代	50代	60代	70代
総医療費	-7.5%	-13.9%	-10.9%	-10.1%
内訳				
メタボリックシンドロームの予備群	-0.7%	-0.4%	-0.5%	0.0%
糖尿病が強く疑われる人	-0.4%	-2.3%	-1.3%	-5.3%
糖尿病の可能性が否定できない人	-1.0%	-1.0%	-0.9%	-0.6%
高血圧有病者	-5.4%	-9.1%	-7.5%	-4.8%
脂質異常症が疑われる人	-0.1%	-1.2%	-0.8%	0.6%

一方、図表43から46は、同じスペックで入院医療費、図表47から49は外来医療費を分析したものである。それぞれ、有意な変数が異なったり、係数値が変化しているが、総じて見て良好な推定結果となっている。基本推定である推定結果5をみると、入院の場合には、推定結果1

では有意ではなかった「メタボ強く疑い」という変数が有意となっている。

図表 43 推定結果 5

入院医療費(一人当たり、年額)

	係数	標準誤差	
性別	24,591	4,287	***
年齢	-11,926	2,451	***
年齢2乗	116	21	***
メタボ強く疑い	21,596	11,687	*
メタボ予備群	-1,776	6,204	
糖尿病強く疑い	19,204	8,822	**
糖尿病可能性	22,378	8,890	**
脂質異常症疑い	14,742	5,679	***
高血圧有病者	10,813	4,337	**
定数項	314,002	70,472	***
nob	27806		
R2	0.0081		

図表 44 推定結果 6

入院医療費(一人当たり、年額)

	係数	標準誤差	
性別	24,910	4,298	***
年齢	-11,769	2,455	***
年齢2乗	114	21	***
メタボ強く疑い	12,800	14,739	
メタボ予備群	1,976	8,315	
糖尿病強く疑い	12,919	9,295	
糖尿病可能性	15,939	10,719	
脂質異常症疑い	17,559	20,533	
高血圧有病者	-11,165	16,104	
メタボ強く疑い*糖尿病強く疑い	31,860	24,953	
メタボ予備群*糖尿病可能性	22,038	19,565	
メタボ強く疑い*高血圧有病者	4,349	9,714	
メタボ予備群*高血圧有病者	4,235	10,260	
メタボ強く疑い*脂質異常症疑い	20,178	17,573	
メタボ予備群*脂質異常症疑い	-21,437	17,506	
定数項	309,740	70,573	***
nob	27745		
R2	0.0085		

図表 45 推定結果 7

入院医療費(一人当たり、年額)		
	係数	標準誤差
性別	21,780	4,923 ***
年齢	-11,948	2,863 ***
年齢2乗	116	25 ***
メタボ強く疑い	17,083	12,929
メタボ予備群	124	7,133
糖尿病強く疑い	17,718	10,112 *
糖尿病可能性	26,224	10,491 **
脂質異常症疑い	13,836	6,417 **
高血圧有病者	12,439	5,302 **
GOT	-3,029	7,653
赤血球数	19,009	7,558 **
ヘマトクリット	37,159	10,687 ***
HDLコレステロール	-3,464	5,240
総コレステロール	-1,143	4,622
定数項	309,058	81,864 ***
nob	21225	
R2	0.0109	

図表 46 推定結果 8

入院医療費(一人当たり、年額)		
	係数	標準誤差
性別	21,931	4,948 ***
年齢	-11,724	2,866 ***
年齢2乗	114	25 ***
メタボ強く疑い	5,179	16,954
メタボ予備群	5,160	9,523
糖尿病強く疑い	8,993	10,996
糖尿病可能性	18,166	12,221
脂質異常症疑い	25,409	23,940
高血圧有病者	-18,347	20,252
メタボ強く疑い*糖尿病強く疑い	42,821	28,762
メタボ予備群*糖尿病可能性	27,414	23,644
メタボ強く疑い*高血圧有病者	9,941	10,645
メタボ予備群*高血圧有病者	2,024	11,088
メタボ強く疑い*脂質異常症疑い	5,620	19,452
メタボ予備群*脂質異常症疑い	-10,249	18,887
GOT	-2,609	7,671
赤血球数	18,526	7,593 **
ヘマトクリット	37,695	10,656 ***
HDLコレステロール	-1,548	5,320
総コレステロール	-1,067	4,641
定数項	302,442	81,997 ***
nob	21167	
R2	0.0114	

図表 47 推定結果 9

外来医療費(一人当たり、年額)		
	係数	標準誤差
性別	-11,825	2,068 ***
年齢	-19,846	1,366 ***
年齢2乗	196	12 ***
メタボ強く疑い	-7,114	5,408
メタボ予備群	18,339	3,005 ***
糖尿病強く疑い	73,601	4,367 ***
糖尿病可能性	9,516	3,341 ***
脂質異常症疑い	61,921	2,899 ***
高血圧有病者	37,698	2,085 ***
定数項	545,859	39,470 ***
nob	27806	
R2	0.1332	

図表 48 推定結果 10

外来医療費(一人当たり、年額)		
	係数	標準誤差
性別	-11,274	2,080 ***
年齢	-19,857	1,373 ***
年齢2乗	196	12 ***
メタボ強く疑い	-11,137	8,159
メタボ予備群	19,214	4,108 ***
糖尿病強く疑い	69,083	4,737 ***
糖尿病可能性	5,411	3,750
脂質異常症疑い	43,446	10,798 ***
高血圧有病者	31,604	8,760 ***
メタボ強く疑い*糖尿病強く疑い	24,178	11,869 **
メタボ予備群*糖尿病可能性	13,162	7,575 *
メタボ強く疑い*高血圧有病者	19,302	7,652 **
メタボ予備群*高血圧有病者	-17,110	8,193 **
メタボ強く疑い*脂質異常症疑い	15,417	9,843
メタボ予備群*脂質異常症疑い	-8,060	10,678
定数項	546,196	39,646 ***
nob	27745	
R2	0.1348	

図表 49 推定結果 11

外来医療費(一人当たり、年額)		
	係数	標準誤差
性別	-15,572	2,613 ***
年齢	-18,261	1,660 ***
年齢2乗	182	14 ***
メタボ強く疑い	-10,544	6,459
メタボ予備群	21,161	3,717 ***
糖尿病強く疑い	73,479	5,249 ***
糖尿病可能性	9,682	3,922 **
脂質異常症疑い	64,024	3,557 ***
高血圧有病者	37,065	2,484 ***
GOT	15,625	4,345 ***
赤血球数	12,894	3,353 ***
ヘマトクリット	16,536	4,596 ***
HDLコレステロール	-9,075	3,073 ***
総コレステロール	-13,736	2,391 ***
定数項	509,240	48,085 ***
nob	21225	
R2	0.1299	

図表 50 推定結果 12

外来医療費(一人当たり、年額)		
	係数	標準誤差
性別	-15,028	2,628 ***
年齢	-18,247	1,675 ***
年齢2乗	182	14 ***
メタボ強く疑い	-19,065	10,082 *
メタボ予備群	20,438	5,047 ***
糖尿病強く疑い	67,365	5,622 ***
糖尿病可能性	6,834	4,496
脂質異常症疑い	46,247	13,399 ***
高血圧有病者	35,170	11,011 ***
メタボ強く疑い*糖尿病強く疑い	33,997	14,829 **
メタボ予備群*糖尿病可能性	11,659	8,798
メタボ強く疑い*高血圧有病者	19,157	8,193 **
メタボ予備群*高血圧有病者	-18,537	9,009 **
メタボ強く疑い*脂質異常症疑い	16,683	11,517
メタボ予備群*脂質異常症疑い	-9,584	12,724
GOT	16,107	4,338 ***
赤血球数	12,380	3,374 ***
ヘマトクリット	16,486	4,594 ***
HDLコレステロール	-7,666	3,077 **
総コレステロール	-13,791	2,396 ***
定数項	508,758	48,491 ***
nob	21167	
R2	0.1315	

## 5. Aデータとのマッチングによる特定健診受診者と未受診者の比較

### 5.1 受診率

図表 51 は、対象年齢の加入者について、A データと特定健診データのマッチング状況をみたものである。特定健診の対象は 40 歳から 74 歳であるが、もちろん、その全てが受診しているわけではない。特に、国保は企業の健保とは異なり、受診の働きかけが難しいことから、受診率はどうしても低くなる。

未受診者のサンプルは (a) となり、受診者が (c) となる。(b) は特定健診を受けたが A データが無いという人々であり、3%ほど存在している。本来、(b) の分類はあつてはおかしいものであるが、A データは平成 19 年 1 月に加入者であったサンプルを追跡して取り出しており、それ以降の加入者を追加していないために生じたものと考えられる。この年齢層では、健保退職者が国保に 1 年の間に流入しているはずであるが、こうした人々の分は除かれてしまっている。このため、3%のマッチングできないサンプルが発生してしまっているのである。

注意しなければならないのは、このため、以下、「受診率」と定義しているのは A データに対する概念であり、実際の受診率とはやや誤差があるということである。

図表 52 は、B データとのマッチング状況である。B データは平成 20 年 5 月の医療機関受診者のみのデータであるために、マッチング率は A データに比べてさらに低く、(b) の対象者が 12%も存在している。

図表 51 A データと特定健診データのマッチング (対象年齢のみ)

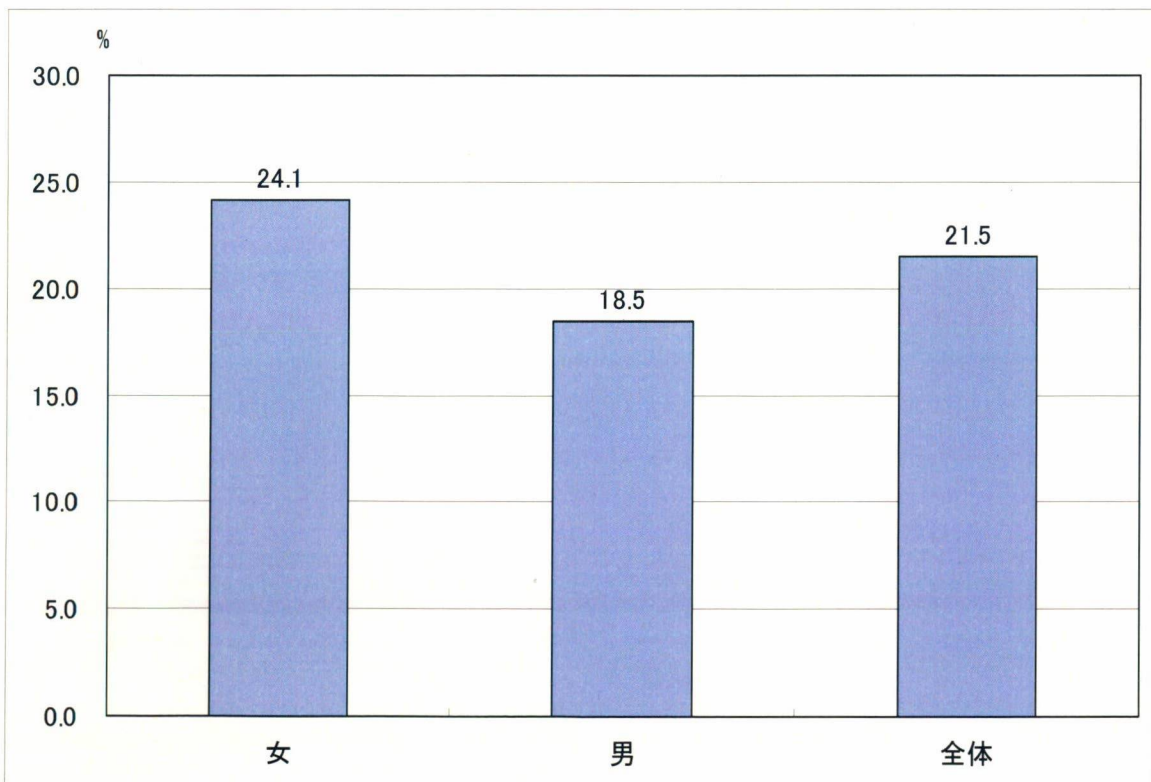
	Freq.	Percent	Cum.
(a)国保20年Aデータのみ(特定検診無し)	102,789	76.41	76.41
(b)特定検診のみ(Aデータ無し)	3,580	3	79.07
(c)Aデータ&特定検診マッチング	28,148	21	100
Total	134,517	100	

図表 52 B データと特定健診データのマッチング (対象年齢のみ)

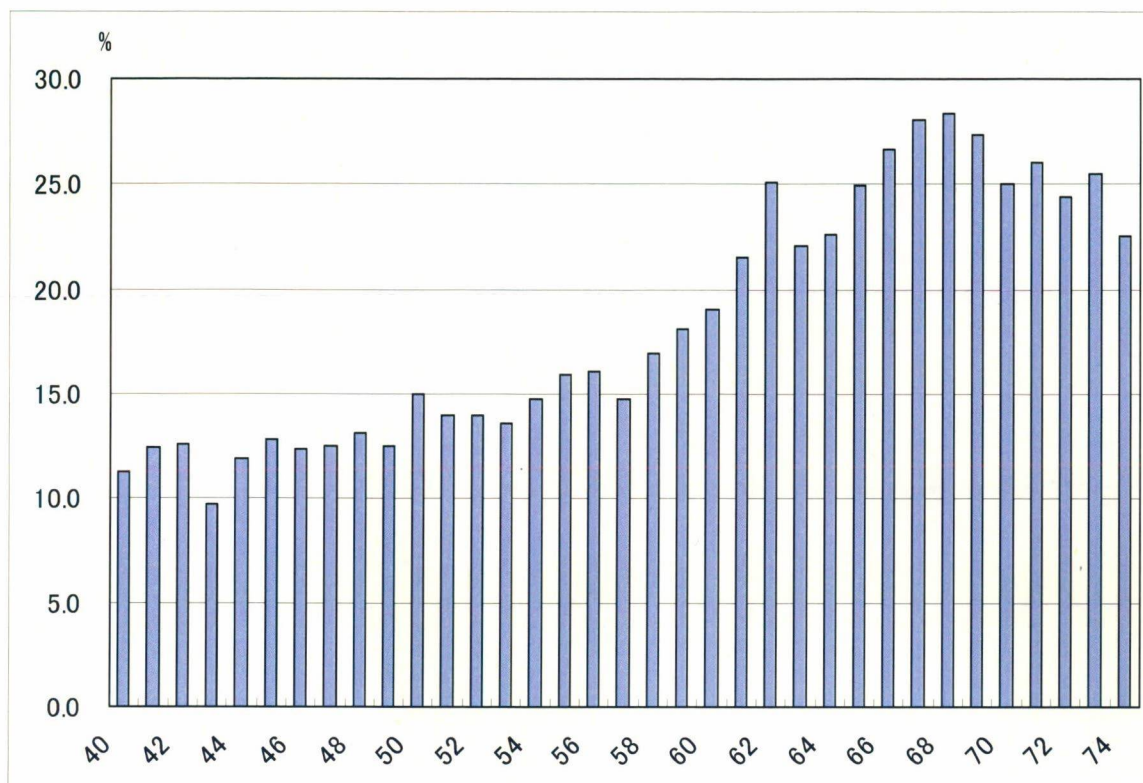
	Freq.	Percent	Cum.
(a)国保20年Bデータのみ(特定検診無し)	75,762	65.76	65.76
(b)特定検診のみ(Bデータ無し)	13,976	12	77.89
(c)Bデータ&特定検診マッチング	25,477	22	100
Total	115,215	100	

図表 53 は受診率を男女でみたものであるが、女性の方がかなり受診率が高い。また、図表 54 は年齢別にみたものであるが、年齢層が高まるほど受診率が高くなり、60 歳代後半をピークとして再び下がることがわかる (市町別の受診率を比較している図表 55 は、福井県および市町の精査を終えた後で公表予定のため、ここでは割愛した)。

図表 53 A データに対する特定健診受診率 (男女別)



図表 54 A データに対する特定健診受診率（年齢別）



## 5.2 医療費の比較

特定健診受診者と未受診者の比較で興味深い疑問点の一つは、その医療費の差異である。実際に、受診者と未受診者のどちらが高いのであろうか。図表 56 はそれぞれの医療費について、受診者と未受診者の差をみたものであるが、未受診者の総医療費は平均で 360,705 円と受診者の 237,403 円を 3 割近く上回っていることがわかる。これは、入院、外来といった細目に分けても、歯科以外は同様の傾向となっている。

ただし、これを未受診者は健康状態が悪いことを知らずに、状況を悪化させて多額の医療費を発生していると短絡的に解釈するべきではない。未受診者には入院患者が元々多いので（平均入院日数、入院確率が受診者よりも高い）、①検診に行くことができない、もしくは②入院で検査を行なって健康状態がよく分かっているから、検診に行かないという可能性もあるからである。



図表 56 特定健診受診者と未受診者の医療費比較（入院調整無し）

単位:円(年額)

	平均	標準偏差	最小値	最大値	サンプル数	
総医療費	受診者	237,403	407,175	0	11,200,000	28148
	未受診者	360,705	875,589	0	25,400,000	102789
入院医療費	受診者	54,419	317,252	0	11,200,000	28148
	未受診者	162,656	722,340	0	25,200,000	102789
	受診者(入院対象者)	652,661	903,856	200	11,200,000	2347
	未受診者(入院対象者)	1,351,709	1,651,964	60	25,200,000	12369
外来医療費	受診者	127,996	162,341	0	4,740,620	28148
	未受診者	142,513	361,966	0	22,500,000	102789
	受診者(外来対象者)	139,612	164,696	600	4,740,620	25806
	未受診者(外来対象者)	190,700	407,591	140	22,500,000	76816
歯科医療費	受診者	25,937	41,257	0	661,480	28148
	未受診者	18,656	48,599	0	4,639,880	102789
	受診者(歯科対象者)	47,798	45,738	380	661,480	15274
	未受診者(歯科対象者)	49,501	68,849	380	4,639,880	38739
調剤医療費	受診者	29,051	82,759	0	5,359,540	28148
	未受診者	36,880	111,762	0	6,614,460	102789
	受診者(調剤対象者)	63,213	112,889	500	5,359,540	12936
	未受診者(調剤対象者)	97,291	164,542	430	6,614,460	38964

(続き)

		平均	標準偏差	最小値	最大値	サンプル数
入院日数	受診者	1.3	8.1	0	366	28148
	未受診者	6.9	38.2	0	523	102789
外来日数	受診者	18.8	25.6	0	497	28148
	未受診者	16.3	27.3	0	600	102789
歯科日数	受診者	4.2	6.3	0	63	28148
	未受診者	2.8	5.6	0	152	102789
調剤日数	受診者	3.3	6.0	0	82	28148
	未受診者	3.1	6.3	0	102	102789
入院確率	受診者	0.08	0.28	0	1	28148
	未受診者	0.12	0.33	0	1	102789
外来確率	受診者	0.92	0.28	0	1	28148
	未受診者	0.75	0.43	0	1	102789
歯科確率	受診者	0.54	0.50	0	1	28148
	未受診者	0.38	0.48	0	1	102789
調剤確率	受診者	0.46	0.50	0	1	28148
	未受診者	0.38	0.49	0	1	102789

そこで、図表 57 は、平成 20 年 4 月から 12 月までの間に 6 ヶ月以上入院しているサンプルを除いたベースで比較したものであるが、やはり 3 割程度未受診者の医療費が高いことは変わらない。さらに、図表 58 は 3 ヶ月以上入院しているサンプルを除いたベースで比較したものである。ここでも 2 割近くはやはり未受診者の医療費の方が高くなっている。したがって、未受診者の医療費が高いことは、入院で時間的制約があるという面からだけでは解釈できず、やはり、健康状態を把握せずに重篤化している患者がいる可能性を否定することは出来ない。

図表 57 特定健診受診者と未受診者の医療費比較（6ヶ月以上入院を除く）

		単位:円(年額)				
		平均	標準偏差	最小値	最大値	サンプル数
総医療費	受診者	235,233	388,193	0	8,598,430	28136
	未受診者	307,860	705,720	0	22,700,000	101508
入院医療費	受診者	52,306	293,312	0	7,906,200	28136
	未受診者	109,475	503,338	0	17,700,000	101508
	受診者(入院対象者)	630,269	820,142	200	7,906,200	2335
	未受診者(入院対象者)	1,002,215	1,193,624	60	17,700,000	11088
外来医療費	受診者	127,956	162,328	0	4,740,620	28136
	未受診者	142,713	361,684	0	22,500,000	101508
	受診者(外来対象者)	139,574	164,686	600	4,740,620	25794
	未受診者(外来対象者)	190,049	406,460	140	22,500,000	76225
歯科医療費	受診者	25,944	41,264	0	661,480	28136
	未受診者	18,685	48,672	0	4,639,880	101508
	受診者(歯科対象者)	47,810	45,743	380	661,480	15268
	未受診者(歯科対象者)	49,477	68,915	380	4,639,880	38335
調剤医療費	受診者	29,027	82,729	0	5,359,540	28136
	未受診者	36,987	111,068	0	6,614,460	101508
	受診者(調剤対象者)	63,173	112,865	500	5,359,540	12928
	未受診者(調剤対象者)	97,105	162,941	430	6,614,460	38664

(続き)

		平均	標準偏差	最小値	最大値	サンプル数
入院日数	受診者	1.3	7.1	0	174	28136
	未受診者	3.1	14.5	0	366	101508
外来日数	受診者	18.8	25.6	0	497	28136
	未受診者	16.4	27.4	0	600	101508
歯科日数	受診者	4.2	6.3	0	63	28136
	未受診者	2.8	5.6	0	152	101508
調剤日数	受診者	3.3	6.0	0	82	28136
	未受診者	3.1	6.4	0	102	101508
入院確率	受診者	0.08	0.28	0	1	28136
	未受診者	0.11	0.31	0	1	101508
外来確率	受診者	0.92	0.28	0	1	28136
	未受診者	0.75	0.43	0	1	101508
歯科確率	受診者	0.54	0.50	0	1	28136
	未受診者	0.38	0.48	0	1	101508
調剤確率	受診者	0.46	0.50	0	1	28136
	未受診者	0.38	0.49	0	1	101508

図表 58 特定健診受診者と未受診者の医療費比較（3ヶ月以上入院を除く）

		単位:円(年額)				
		平均	標準偏差	最小値	最大値	サンプル数
総医療費	受診者	221,395	330,429	0	7,309,520	27957
	未受診者	258,526	552,910	0	22,700,000	99697
入院医療費	受診者	40,242	227,965	0	6,842,030	27957
	未受診者	67,841	335,054	0	13,600,000	99697
	受診者(入院対象者)	521,820	650,189	200	6,842,030	2156
	未受診者(入院対象者)	729,066	851,132	60	13,600,000	9277
外来医療費	受診者	126,528	160,169	0	4,740,620	27957
	未受診者	136,565	344,738	0	22,500,000	99697
	受診者(外来対象者)	138,092	162,487	600	4,740,620	25616
	未受診者(外来対象者)	182,839	388,142	140	22,500,000	74465
歯科医療費	受診者	25,923	41,255	0	661,480	27957
	未受診者	18,609	48,335	0	4,639,880	99697
	受診者(歯科対象者)	47,808	45,745	380	661,480	15159
	未受診者(歯科対象者)	49,447	68,433	380	4,639,880	37521
調剤医療費	受診者	28,702	82,233	0	5,359,540	27957
	未受診者	35,511	107,283	0	6,614,460	99697
	受診者(調剤対象者)	62,660	112,408	500	5,359,540	12806
	未受診者(調剤対象者)	94,756	158,424	430	6,614,460	37363

(続き)

		平均	標準偏差	最小値	最大値	サンプル数
入院日数	受診者	0.9	5.1	0	153	27957
	未受診者	1.8	8.9	0	235	99697
外来日数	受診者	18.7	25.4	0	497	27957
	未受診者	16.0	26.9	0	514	99697
歯科日数	受診者	4.2	6.3	0	63	27957
	未受診者	2.8	5.6	0	152	99697
調剤日数	受診者	3.2	6.0	0	82	27957
	未受診者	3.0	6.3	0	102	99697
入院確率	受診者	0.08	0.27	0	1	27957
	未受診者	0.09	0.29	0	1	99697
外来確率	受診者	0.92	0.28	0	1	27957
	未受診者	0.75	0.43	0	1	99697
歯科確率	受診者	0.54	0.50	0	1	27957
	未受診者	0.38	0.48	0	1	99697
調剤確率	受診者	0.46	0.50	0	1	27957
	未受診者	0.37	0.48	0	1	99697

### 5.3 疾病割合の比較

図表 59 と 60 は、特定健診受診者と未受診者で、それぞれどのような疾病が多いのか、B データをマッチングさせて比較したものである。未受診者、受診者ごとに、全体に対する各疾病名の割合を示している。グレー、太字が特に目立つものであるが、入院、外来ともに未受診者の方が重篤な疾患の割合が高いことがわかる。

図表 59 特定健診受診者と未受診者の疾病比較（入院）

大分類疾病名	中分類疾病名	%（各カテゴリーに占める割合）	
		未受診者	受診者
<b>I 感染症及び寄生虫症</b>			
	腸管感染症	0.26	3.42
	結核	0.4	0
	皮膚及び粘膜の病変を伴うウイルス疾患	0.19	1.14
	ウイルス肝炎	0.82	0
	その他のウイルス疾患	0.02	0.46
	真菌症	0.02	0
	その他の感染症及び寄生虫症	0.14	0.46
<b>II 新生物</b>			
	胃の悪性新生物	1.91	1.82
	結腸の悪性新生物	0.99	0.46
	直腸S 状結腸移行部及び直腸の悪性新生物	0.61	0
	肝及び肝内胆管の悪性新生物	1.58	0
	気管、気管支及び肺の悪性新生物	1.98	1.37
	乳房の悪性新生物	1.13	0.23
	子宮の悪性新生物	0.33	0.46
	悪性リンパ腫	0.61	0
	白血病	0.26	0
	その他の悪性新生物	4.8	1.82
	良性新生物及びその他の新生物	2.94	5.92
<b>III 血液及び造血器の疾患並びに免疫機構の障害</b>			
	貧血	0.35	0
	その他の血液及び造血器の疾患並びに免疫機構の障害	0.02	0
<b>IV 内分泌、栄養及び代謝疾患</b>			
	甲状腺障害	0.24	0
	糖尿病	4.28	1.82
	その他の内分泌、栄養及び代謝疾患	0.68	0.91
<b>V 精神及び行動の障害</b>			
	血管性及び詳細不明の痴呆	0.26	0
	精神作用物質使用による精神及び行動の障害	0.71	0
	統合失調症、統合失調症型障害及び妄想性障害	17.58	1.59
	気分[感情]障害（躁うつ病を含む）	2	0.91
	神経症性障害、ストレス関連障害及び身体表現性障害	0.8	0.23
	知的障害<精神遅滞>	0.31	0
	その他の精神及び行動の障害	0.66	0
<b>VI 神経系の疾患</b>			
	パーキンソン病	0.59	0
	アルツハイマー病	0.19	0
	てんかん	0.49	0
	脳性麻痺及びその他の麻痺性症候群	0.82	0
	自律神経系の障害	0.02	0
	その他の神経系の疾患	1.81	1.82
<b>VII 眼及び付属器の疾患</b>			
	白内障	2.28	8.88
	屈折及び調節の障害	0.12	0
	その他の眼及び付属器の疾患	1.55	3.19
<b>VIII 耳及び乳様突起の疾患</b>			
	中耳炎	0.14	0.23
	その他の中耳及び乳様突起の疾患	0.02	0.23
	メニエール病	0.09	0
	その他の内耳疾患	0.21	0
	その他の耳疾患	0.09	0.91
<b>IX 循環器系の疾患</b>			
	高血圧性疾患	1.51	1.37
	虚血性心疾患	3.27	5.92
	その他の心疾患	1.84	2.73
	くも膜下出血	0.52	0
	脳内出血	1.2	0.46
	脳梗塞	2.56	3.42
	その他の脳血管疾患	0.96	0.68
	動脈硬化（症）	0.4	0.46
	痔核	0.28	0.68
	低血圧（症）	0.05	0
	その他の循環器系の疾患	0.89	0.68

(続き)

%(各カテゴリーに占める割合)

大分類疾病名	中分類疾病名	未受診者	受診者
<b>X 呼吸器系の疾患</b>			
	急性咽頭炎及び急性扁桃炎(風邪)	0.12	0
	その他の急性上気道感染症	0.05	0.23
	肺炎	1.34	2.73
	急性気管支炎及び急性細気管支炎	0.05	0.46
	アレルギー性鼻炎	0.02	0
	慢性副鼻腔炎	0.07	1.14
	慢性閉塞性肺疾患	0.33	0
	喘息	0.59	0
	その他の呼吸器系の疾患	1.01	0.68
<b>X I 消化器系の疾患</b>			
	胃潰瘍及び十二指腸潰瘍	0.78	1.82
	胃炎及び十二指腸炎	0.26	0.23
	アルコール性肝疾患	0.42	0
	慢性肝炎(アルコール性のものを除く)	0.12	0
	肝硬変(アルコール性のものを除く)	0.71	0
	その他の肝疾患	0.45	1.14
	胆石症及び胆のう炎	0.47	0.68
	膵疾患	0.45	0
	その他の消化器系の疾患	3.41	8.88
<b>X II 皮膚及び皮下組織の疾患</b>			
	皮膚及び皮下組織の感染症	0.38	0.68
	皮膚炎及び湿疹	0.09	0
	その他の皮膚及び皮下組織の疾患	0.26	0.23
<b>X III 筋骨格系及び結合組織の疾患</b>			
	炎症性多発性関節障害	1.2	0.68
	関節炎	1.46	1.37
	脊椎障害(脊椎症を含む)	2.07	2.96
	椎間板障害	0.56	1.82
	頸腕症候群	0.14	0.23
	腰痛症及び坐骨神経痛	0.24	1.37
	その他の脊柱障害	0.38	0.68
	肩の障害(損傷)	0.24	0
	骨の密度及び構造の障害	0.21	0.68
	その他の筋骨格系及び結合組織の疾患	1.46	1.14
<b>X IV 尿路器系の疾患</b>			
	糸球体疾患及び腎尿管間質性疾患	0.38	0.46
	腎不全	1.86	0
	尿路結石症	0.66	1.37
	その他の尿路系の疾患	0.47	0.46
	前立腺肥大(症)	0.12	2.28
	その他の男性性器の疾患	0.09	0
<b>X V 妊娠、分娩及び産じょく</b>			
	月経障害及び閉経周辺期障害	0.05	0
	乳房及びその他の女性性器の疾患	0.35	0
	その他の妊娠、分娩及び産じょく	0.05	0
<b>X VI 先天奇形、変形及び染色体異常</b>			
	心臓の先天奇形	0.02	0
	その他の先天奇形、変形及び染色体異常	0.14	0
<b>X VII 症状、徴候及び異常臨床所見・異常検査所見で他に分類されないもの</b>			
	症状、徴候及び異常臨床所見・異常検査所見で他に分類され	1.22	1.37
<b>X VIII 損傷、中毒及びその他の外因の影響</b>			
	骨折	3.91	5.01
	頭蓋内損傷及び内臓の損傷	0.61	0.46
	熱傷及び溺食	0.09	0
	中毒	0.07	0
	その他の損傷及びその他の外因の影響	1.79	4.1



図表 60 特定健診受診者と未受診者の疾病比較（外来）

大分類疾病名	中分類疾病名	% (各カテゴリーに占める割合)	
		未受診者	受診者
<b>I 感染症及び寄生虫症</b>			
	腸管感染症	0.38	0.45
	結核	0.05	0.01
	主として性的伝播様式をとる感染症	0.02	0.02
	皮膚及び粘膜の病変を伴うウイルス疾患	0.33	0.43
	ウイルス肝炎	1.37	0.71
	その他のウイルス疾患	0.02	0.01
	真菌症	1.04	1.57
	感染症及び寄生虫症の続発・後遺症	0.01	0
	その他の感染症及び寄生虫症	0.08	0.05
<b>II 新生物</b>			
	胃の悪性新生物	0.57	0.52
	結腸の悪性新生物	0.33	0.17
	直腸 S 状結腸移行部及び直腸の悪性新生物	0.17	0.08
	肝及び肝内胆管の悪性新生物	0.11	0.02
	気管、気管支及び肺の悪性新生物	0.31	0.2
	乳房の悪性新生物	0.43	0.31
	子宮の悪性新生物	0.12	0.1
	悪性リンパ腫	0.14	0.05
	白血病	0.06	0.01
	その他の悪性新生物	0.99	0.61
	良性新生物及びその他の新生物	0.97	1.22
<b>III 血液及び造血器の疾患並びに免疫機構の障害</b>			
	貧血	0.24	0.15
	その他の血液及び造血器の疾患並びに免疫機構の障害	0.16	0.13
<b>IV 内分泌、栄養及び代謝疾患</b>			
	甲状腺障害	0.72	0.68
	糖尿病	7.65	4.57
	その他の内分泌、栄養及び代謝疾患	4.95	7.66
<b>V 精神及び行動の障害</b>			
	血管性及び詳細不明の痴呆	0.02	0.01
	精神作用物質使用による精神及び行動の障害	0.11	0.05
	統合失調症、統合失調症型障害及び妄想性障害	1.51	0.76
	気分[感情]障害（躁うつ病を含む）	1.46	1.1
	神経症性障害、ストレス関連障害及び身体表現性障害	0.98	0.81
	知的障害<精神遅滞>	0.07	0.01
	その他の精神及び行動の障害	0.3	0.16
<b>VI 神経系の疾患</b>			
	パーキンソン病	0.29	0.15
	アルツハイマー病	0.1	0.05
	てんかん	0.5	0.17
	脳性麻痺及びその他の麻痺性症候群	0.09	0.03
	自律神経系の障害	0.1	0.11
	その他の神経系の疾患	0.88	0.69
<b>VII 眼及び付属器の疾患</b>			
	結膜炎	0.95	1.24
	白内障	1.63	2.09
	屈折及び調節の障害	1.86	2.77
	その他の眼及び付属器の疾患	2.92	3.63
<b>VIII 耳及び乳様突起の疾患</b>			
	外耳炎	0.25	0.26
	その他の外耳疾患	0.12	0.14
	中耳炎	0.43	0.48
	その他の中耳及び乳様突起の疾患	0.13	0.14
	メニエール病	0.25	0.26
	その他の内耳疾患	0.06	0.08
	その他の耳疾患	0.35	0.52
<b>IX 循環器系の疾患</b>			
	高血圧性疾患	19.41	18.38
	虚血性心疾患	1.95	1.38
	その他の心疾患	1.44	1.11
	くも膜下出血	0.08	0.06
	脳内出血	0.29	0.1
	脳梗塞	1.44	0.99
	脳動脈硬化（症）	0.01	0.02
	その他の脳血管疾患	0.33	0.38
	動脈硬化（症）	0.13	0.1
	痔核	0.21	0.29
	低血圧（症）	0.04	0.04
	その他の循環器系の疾患	0.3	0.15

(続き)

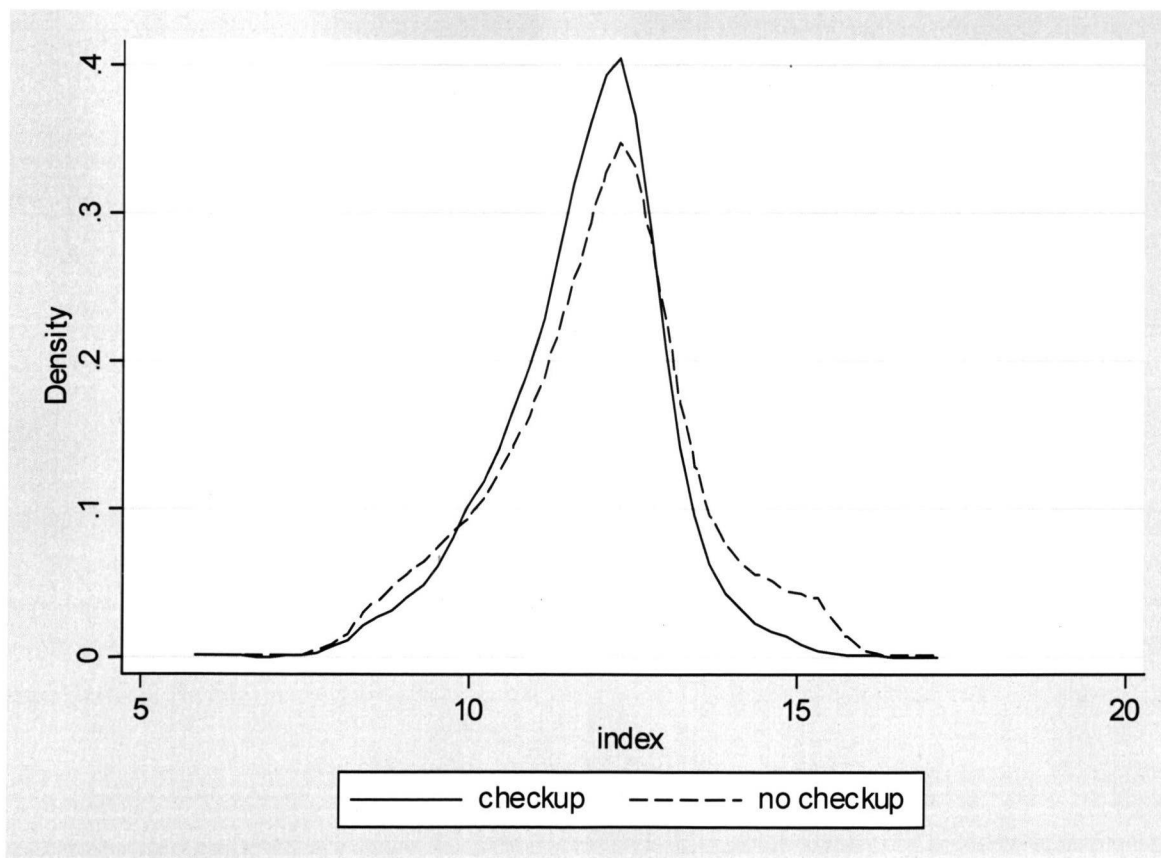
%(各カテゴリーに占める割合)

大分類疾病名	中分類疾病名	未受診者	受診者
<b>X 呼吸器系の疾患</b>			
	急性鼻咽頭炎[かぜ] (感冒)	0.09	0.11
	急性咽喉炎及び急性扁桃炎	0.41	0.61
	その他の急性上気道感染症	1.11	1.41
	肺炎	0.14	0.14
	急性気管支炎及び急性細気管支炎	0.79	1.12
	アレルギー性鼻炎	1.17	1.64
	慢性副鼻腔炎	0.65	1.01
	急性又は慢性と明示されない気管支炎	0.25	0.41
	慢性閉塞性肺疾患	0.38	0.3
	喘息	1.21	1.07
	その他の呼吸器系の疾患	0.41	0.42
<b>X I 消化器系の疾患</b>			
	う蝕	0	0
	歯肉炎及び歯周疾患	0.01	0
	その他の歯及び歯の支持組織の障害	0	0.01
	胃潰瘍及び十二指腸潰瘍	1.25	1.03
	胃炎及び十二指腸炎	1.97	2.12
	アルコール性肝疾患	0.12	0.05
	慢性肝炎 (アルコール性のものを除く)	0.36	0.24
	肝硬変 (アルコール性のものを除く)	0.31	0.08
	その他の肝疾患	0.36	0.3
	胆石症及び胆のう炎	0.12	0.13
	膵疾患	0.17	0.1
	その他の消化器系の疾患	1.4	1.5
<b>X II 皮膚及び皮下組織の疾患</b>			
	皮膚及び皮下組織の感染症	0.23	0.24
	皮膚炎及び湿疹	2.7	3.11
	その他の皮膚及び皮下組織の疾患	1.51	1.59
<b>X III 筋骨格系及び結合組織の疾患</b>			
	炎症性多発性関節障害	1.46	1.02
	関節炎	3.44	4.29
	脊椎障害 (脊椎症を含む)	2.94	3.58
	椎間板障害	0.9	1.06
	頸腕症候群	0.26	0.29
	腰痛症及び坐骨神経痛	0.88	1.03
	その他の脊柱障害	0.42	0.57
	肩の障害 (損傷)	0.91	1.09
	骨の密度及び構造の障害	0.91	1.49
	その他の筋骨格系及び結合組織の疾患	1.19	1.31
<b>X IV 尿路性器系の疾患</b>			
	糸球体疾患及び腎尿管間質性疾患	0.27	0.27
	腎不全	0.48	0.05
	尿路結石症	0.17	0.12
	その他の尿路系の疾患	0.81	0.7
	前立腺肥大 (症)	0.79	1.01
	その他の男性性器の疾患	0.07	0.07
	月経障害及び閉経周辺期障害	0.27	0.31
	乳房及びその他の女性性器の疾患	0.3	0.48
<b>X VI 先天奇形、変形及び染色体異常</b>			
	心臓の先天奇形	0.02	0.01
	その他の先天奇形、変形及び染色体異常	0.06	0.02
<b>X VII 症状、徴候及び異常臨床所見・異常検査所見で他に分類されないもの</b>			
	症状、徴候及び異常臨床所見・異常検査所見で他に分類されないもの	1.7	1.7
<b>X VIII 損傷、中毒及びその他の外因の影響</b>			
	骨折	0.89	0.79
	頭蓋内損傷及び内臓の損傷	0.04	0.03
	熱傷及び腐食	0.06	0.03
	中毒	0.03	0.06
	その他の損傷及びその他の外因の影響	1.42	1.44

#### 5.4 医療費分布の差異

ただし、未受診者の中には、健康、もしくは健康に自信があるゆえに検診を受けないという人々がいることもまた事実である。図表 61 は、カーネル推定という一種の度数分布を使って、検診受診者と未受診者の総医療費の分布を確認したものである。未受診者は、受診者に比べて両側の裾野が広く、医療費も低い人の割合もある程度高いことがわかる。図表 62 にみるように、医療機関の無受診者(対数をとるとグラフの分布からは落ちてしまう)も、未受診者で割合が高いことを考えると、やはり未受診者の医療費分布は二分化していると評価できるだろう。図表 62、63 はそれぞれ入院、外来別に医療費分布を確認したものである。

図表 61 検診受診者と未受診者の医療費分布の比較(対数医療費)



図表 62 検診受診者と未受診者の医療機関無受診率の比較

		平均	標準偏差	最小値	最大値	サンプル数
医療機関無受診率	受診者	0.02	0.13	0.00	1.00	28148
	未受診者	0.10	0.30	0.00	1.00	102789

図表 63 検診受診者と未受診者の入院医療費分布の比較 (対数医療費)

